緑の地球　第179号　2018年1月15日発行　年6回・奇数月15日発行　発行：認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク
年間購読料2,000円（送料含む）　〒552-0012大阪市港区市岡1丁目5-24　小来田ビル303号　TEL. 06-6576-6181　FAX. 06-6576-6182
郵便振替　00940-2-128465　E-MAIL：gentree@s4.dion.ne.jp　URL（ホームページ）　http://gen-tree.org

緑の地球
GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

GEN自然と親しむ会恒例の無煙炭化器を使った炭焼きは武田尾で見ごろの紅葉に囲まれてＢＢＱを楽しんだ

Contents

● 2018　年頭のごあいさつ …… Ｐ２
●運営懇談会を開催しました …… Ｐ２
● 2018春の黄土高原スタディツアー参加者募集 … Ｐ３
●自然と親しむ会、宇久須合宿報告 …… Ｐ４～６
●大同緑化協力25年の軌跡 …… Ｐ５

2018.1
179

認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク

GENに参加するには　☆会員・会報購読者になる　☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する　☆ワーキングツアーに参加する
☆ビデオ『よみがえる森』を見る　☆書き損じハガキ・古切手を集めて送るetc.　★あなたのご参加を待っています！

今年もＧＥＮの応援をよろしくお願いいたします

2018　年頭のごあいさつ

緑の地球ネットワーク代表　前中 久行

新しい年2018年を迎えました。同じ太陽が照らす日中両岸の皆様、新年好！あけましておめでとうございます。引き続き緑の地球ネットワーク（GEN）をよろしくお願いします。

振り返ると、ここ数年は1992年以来の大同における緑化活動の成果を確認して、今後の方針を決めるという重要な時期でした。

おかげさまで一定の方向性が定まり、昨年は具体的にその一歩を踏み出すことができました。多くの人々のご協力ご支援のおかげです。

会員の皆様、ご支援いただいた企業、団体、各種組織および個人の方々に深く感謝します。また広く関心をもっていただいている方々にお礼申し上げます。大同の皆様、非常非常感謝！

大同では累計6000ha、1900万本を植えました。緑化および交流と相互理解の増進に大きな成果をあげました。あちらこちらの荒れ地が一望の緑に変貌しました。

いっぽう緑化が進んだために、新しい土地をみつけるのが難しくなっていました。この四半世紀の間に状況は大きく変化しました。中国の経済発展の効果と影響が大同に及んできました。いっぽう日本では経済の泡が萎んだうえに地震や災害にみまわれました。ようやく明るさがみえてきたようですが、その評価は人によって様ざまです。社会の高齢化も進んでいきます。

このような状況をふまえて、GENは今後の活動方針を検討してきました。運営懇談会や総会でも議論いただきました。その方向にしたがって、「緑色地球網絡大同事務所」が管理していた二つの事業を地元政府に移管しました。働いている人たちの雇用も継続しています。大同事務所の負担が軽くなります。

「緑の地球環境センター」は、大同市総工会の人材養成農場となる予定です。総工会から予算もつくことになります。大同とは今後より対等な立場として提携と交流を続けます。

新しい緑化地として、昨年は隣接する河北省張家口市蔚県の荒れ山33haにマツ苗を植えました。一部は春、夏の日本からのツアーの方がたが植えました。

新しい場所で相手側も初めてなので、大同のようにツーカーと諸事が進むというわけではありませんが大過なく進行しています。今年と来年は、場所が変わりますが合わせて67haの予定地が確保できています。場所は商、周時代の代王城遺址付近です。これらの土地では従来と同じ荒地回復の緑化をします。

いっぽう蔚県には、大規模な湿地公園の計画があります。その一画に土地を確保して、湿地樹木の復元や展示園の植栽も考えています。こちらは従来の荒地の緑化とは別の範疇になりますが、水生生物や鳥類を含む湿地の生物多様性の保全という世界の潮流に取り組む地元の人びとと一緒に活動できればと思っています。

講演会、学習会、自然と親しむ会、支部活動、スタディツアー、運営懇談会、総会など様ざまな形での参加とご支援、ご協力をお願いします。

GEN運営懇談会を開催しました

2017年もGEN運営懇談会が開催されました。12月9日（土）に大阪の大阪市立中央会館で、16日（土）に東京の立教大学でおこないました。

大阪会場には19名、東京会場14名が参加しました。

今回の運営懇談会では、高見副代表によるこれまでの山西省大同市での緑化活動の報告と、2016年度からスタートした張家口市蔚県での緑化協力の体制や、現在の状況についてスライドを使って報告がありました。

そのあとは参加者がGENの活動の活性化のために何ができるか、国内の活動についてなど参加者が熱心に議論を交わしました。

若い層の会員が減少傾向にありますが、学生や若い年代の人に活動に参加してもらうための対策としてSNSを有効活用してこまめに情報を発信する、大学生にツアーに参加してもらうためにまずは学校の先生に向けての働きかけが必要、などの意見があがりました。

参加者募集

2018年 春の黄土高原 スタディツアー

今年の春は中国の黄土高原で木を植えてみませんか。

張家口市蔚県での2年目の春のツアーです。村での植樹はもちろん、小学校での子どもたちとの交流や、博物館の見学、古い町並みが残る暖泉鎮も訪問します。大同のときのツアーとはひと味違った現地スタッフとの触れ合いや食事、景色などをお楽しみください。

○日程：2018年4月14日（土）～19日（木）5泊6日

○旅行代金：166,000円（学生割引10,000円）

※国際航空運賃、空港使用料、中国国内の交通費／食費／宿泊費を含みます。旅券取得の費用、海外旅行傷害保険、燃油特別付加運賃、個人行動時の費用は含みません。GEN年会費〈一般＝12,000円、学生＝3,000円〉が別途必要です）

※全日空利用予定

※関西空港発着※東京発着、北京合流希望の方はご相談ください。

○定員：30名程度

○最少催行人員：8名

○申込締切：2月26日（月）

○訪問地：中国河北省張家口市蔚県（北京経由）

○添乗員は同行しません。GENスタッフ1名が関西空港から同行します。

○参加ご希望の方は、GEN事務所までご連絡ください。資料は（株）マイチケットから発送します。

いますぐできるGENへの協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）

一般会費	12,000円
家族会費（同居の家族2人目から）	6,000円
学生会員	3,000円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000円
団体会員	12,000円
賛助会員	100,000円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください！

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただけませんか。年間購読料2,000円。

■緑化基金、運営寄付もとむ

金額は自由です。また、緑化基金、運営寄付の別を問わない使途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

＊緑化基金の20%は事務管理費になります。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGENから連絡します。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

【GENへの寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認定された認定NPO法人です（期限は2019年4月8日まで）。

個人によるGENへの寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPOに寄附すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。

くわしくはGENまでご連絡ください。

ワンフェス for Youth に参加しました

12月23日（土）、ワンフェスfor YouthにGENがブース出展してきました。

ワンフェスfor Youthは高校生が中心となって行う国際交流、国際協力のイベントです。今年は会場を大阪YMCAに移しての開催でした。

当日の朝、高校生が中心のイベントとあって開始前から学生服姿の人だかりができ、会場内はすでに熱気を帯びていて上着いらず。GENブースに来てくれたみなさんは真剣に話を聞いてくれ、いろいろ質問もしてくれました。

学生時代からだいぶ遠ざかった私などは「最近の若者は内向きで海外の活動には興味がないのでは…」という色眼鏡で見てしまいがちでしたが、会場にあふれる人を見て、日本の高校生で国際協力に興味を持っている人はこんなにたくさんいたのか！　とうれしくなりました。

ではどうしたらGENの活動に参加してくれるだろうかということで、ブースを訪れた高校生たちにこういう活動に興味をもったきっかけについてインタビューしてみたのですが、学校の先生が国際協力の活動を熱心にやっていて影響を受けた、という回答が多く聞かれました。学生の前に先生たちにも大いに宣伝する必要がありそうです。

好奇心旺盛ではつらつとした彼らのおかげでこちらも元気をもらえた1日となりました。（河本）

ＧＥＮブースで熱心に話を聞く高校生

参加者募集

Greenなんでも勉強会

淀川の改変と環境保全

ひさびさにGENのGreenなんでも勉強会を開催します。琵琶湖から大阪湾へそそぐ淀川はわたしたちの暮らしに欠かせない水源ですが、その淀川の自然環境についてはどこまで知っているでしょうか。

今回は淀川のこれまでの河川改修によって環境にどのような影響が及ぼされたか、その変遷と歴史についてなど、元大阪自然環境保全協会会長で淀川環境委員会のメンバーでもある高田直俊さんにお話しいただきます。ぜひご参加ください。

○日時：2月22日（木）18時30分～20時30分
○場所：大阪市立総合生涯学習センター第7研修室（大阪駅前第2ビル5階JR大阪駅／北新地駅／各線梅田駅下車）
○講師：高田直俊さん（元大阪自然環境保全協会会長　大阪市立大学名誉教授）
○参加費：700円
○申込み・問合せ：2月20日（火）までにGEN事務所までご連絡ください。

報告

今年は豊作 宇久須のサトイモ

浅野　千明（GEN会員）

10月27日～29日、GEN関東ブランチ西伊豆秋合宿がおこなわれ、5名が参加しました。台風の接近が心配されましたが無事実施することができました。

関東ブランチ秋の合宿が西伊豆町宇久須であったのは去年10月27日からの週末。折しも台風22号の関東直撃も予想され、空模様にハラハラドキドキの3日間でした。

何せ芋掘りする畑は昔水田だった休耕田。夏からの雨続きに加えて先週も台風21号が来たばかり。22号の風雨がたたみかければ、泥との格闘になると請け合いです。

例年なら初日は夕刻集合、近くのレストランに移動して海鮮焼きをつつき、杯を重ねながらの結団式といったところなのですが、台風相手の今回は先手必勝と、午後1時に集合、畑へ直行となりました。

参加したのは世話人の上田信先生、顧問の桜井尚武先生、大番頭の美谷島克実さん、地元大番頭の藤原國雄先生、それに私の5人。平均年齢こそ60を超えますが、私以外は働き者揃いです。

5月の合宿で約10mの畝3列に植えた海老芋（サトイモ）とサツマイモ。海老芋は期待通りの豊作でした。親芋の周りにビッシリ子芋が育ち、何倍にもなっていました。次にサツマイモ。一面葉とつるがこんもりジャングル状態。この調子だったら、採れすぎ（↗）（↙）てとても全部持って帰れない、などと皮算用でしたが、掘ってみると芋がほとんどない。「つるボケ」というのだそうです。ボケていたのは私だけではありませんでした。

翌日は合宿第2の目的、珪石採取鉱山跡地の緑化活動です。山深く標高500m前後の広大な跡地には植栽用の段々畑のようなインフラが作られていますが、緑はまだほとんどありません。鉱山会社の依頼で関東ブランチも関わり、シカなどの食害に強く、強酸性の土壌にも耐える樹種を試験しています。この3年ほど、学生たちが植えた候補樹種のなかでシキミが悪条件に耐えて根付き始めていました。イズセンリョウとアセビは負けそうです。1本ずつそばに肥料を撒き、風雨に飛ばされないよう石を上に。

帰りがけ、道端で草を食む子鹿4頭を見かけました。

大同緑化協力25年の軌跡

絶妙だった出発のタイミング

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で6回目です。（高見邦雄）

大同で私たちが緑化協力を開始したのは1992年でした。出発当初のプロジェクトがさんざんだったことは何度も報告しました。それには地元の人たちの環境意識も大きくかかわっていたと思います。

「このままいくと中国の環境問題はたいへんなことになる」と私が話すと、「それは先に豊かになった日本人の勝手な議論だ。中国は十数億人が生きていかないといけない。そのために経済発展が欠かせないのだ。経済発展に弊害がともなうとしても、自分たちは甘んじて受け止める。汚染すらほしいのだ」という答えが、青年団の幹部から返ってきたりしたものです。

末端の青年団の幹部が植林の現場に入ろうとしないのです。地元の農民やこどもたちが熱心に働いているとき、植林地の外で立ち話をしています。そのうち疲れて座り込む。退屈なのでトランプをはじめる。そんなことすらあったのです。

植林を訴えるスローガンはたくさんありましたが、それはかけ声だけで、予算措置はありませんので、現場の志気もあがりません。それはそのまま結果に現れます。

そのあいだにも中国の環境問題は深刻化するいっぽうでした。その現れの一つが1998年の長江をはじめとする大洪水です。堤防が切れたり、切れかかったりするなかで、動員された軍が懸命に働きました。偉大な民族戦争といったスローガンまであらわれたのです。大洪水は北から南までいっせいに起こり、あふれた水は何か月もひきません。大陸の自然災害の規模の大きさに驚かされました。

その翌年の年頭に全国生態環境建設計画が発表され、緑化事業の強化が重要な項目になりました。政府の決定が地方の末端まで強力に働くことをこのときほど実感したことはありません。関係者の顔つきが変わったのです。

もし、この決定があと数年遅れ、あの失敗と困難がその後もつづいたとしたら、私たちは持ちこたえられたかどうか、私には自信がありません。

では逆に、私たちの出発がもっと遅く、たとえば1999年よりあとだったら、初期の失敗を経験することなく、スムーズに発展させることができたでしょうか。そうとはいえないと思います。

というのは、あの失敗があったからこそ、私たちは地元の人たちと頭を働かせ、さまざまな工夫をこらしました。緑色地球網絡大同事務所というこの協力事業を専門とする組織をつくってもらったのがその最大のものでしょう。

さらに、地元の農村に経験がないときは、小さな規模ではじめ、どんな問題が発生するか、それはどうやったら解決できるか、その経験を積んでから、徐々に規模を拡大する、といったやり方も採用しました。

問題に突き当たり、それを解決するなかで、中国側と私たちとの相互理解が深まり、信頼関係をねりあげることができたのです。

あの時期にはじめたことが、もっと重要な意味をもっていたことに、私は最近気づきました。それはカウンターパートたちの自負です。政府が決めるまえから、自分たちは苦労して事業にとりくみ、それを成功の軌道に乗せてきた、という自信と誇りを彼らがもってくれたことです。それこそ、なにものにも換えられないたいせつなものだったと私は思います。

その意味でも絶好のタイミングだったと思うのです。

翌春の植栽に向けてていねいに整地する

報告 紅葉を楽しみながらの炭焼き

宮本　敏幸（GEN 世話人）

11 月 25 日、無煙炭化器を使った炭焼きがおこなわれ、10 名が参加しました。風の少ない晴天で絶好の炭焼き日和となりました。宇久須で収穫された里いもで豚汁を作りました。

武田尾は西宮市の東北部の山間地。そこの武庫川河川敷で、私の言葉では『消し炭』という柔らかい炭を、無煙炭化器を使って作るのが今回の目的。

炭は燃料としてはもちろん有用で、土壌改良や消臭・水質浄化などにも効果があり、中国や国内の植林でも掘った穴の中に、苗木とともに粉炭を入れたりする（詳しくは炭活用研究会の『炭の本』、炭と植物の関係は GEN 顧問小川眞先生の『キノコの教え』の『マツを助けたショウロ』の項を参照してください）。

材料は最近現地調達できないので、持参した杉の間伐材である。川島（GEN 副代表）さんに間伐材→炭化の過程を化学的に説明してもらった後、使用済み割り箸→細い間伐材→ 75 ミリ角材を無煙炭化器にてんこ盛りに投入・着火。無煙炭化器の下方からの酸素の供給を断つことが、コツである。他方で、任務分担して豚汁つくりとペール缶のかまどで羽釜のご飯炊き。出来つつある柔らかい炭をとりわけ、硬い炭を足して BBQ 用の炭をおこす。

昼前には完全に BBQ パーティー。おすすめ No.1 は、少し硬めだったが、羽釜のご飯。おこげもあり、ノスタルジックな非日常がうれしい。

対岸の旧福知山線の廃線跡の止めどないハイカーの群れ（？）が良い所をみつけたものだという羨望の眼差しと、単なる BBQ ではなさそうな理解不能な無煙炭化器を興味深そうに見て通る。次回からは、宣伝用ののぼりでも立てるかな。それなりに火が通り、炭の出来具合もよくなったところで、消火。

腹ごしらえも済み、紅より黄葉が多い廃線跡を少し下手の桜の園まで真っ暗なトンネルをくぐり抜けたりして散策した。紅葉シーズンということもあり、大勢のハイカーでにぎわっていた。

帰ってきたら、丁度、炭も出来上がり。晩秋の穏やかな日に、充実した 1 日となった。

報告 大ケヤキを訪ねて冬の能勢町へ

中井　節子（GEN 会員）

12 月 23 日、前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑤野間の大ケヤキを訪ねるがおこなわれ、15 名が参加しました。晴天に恵まれ、野間の大ケヤキを訪ねたあと、ハイキングを楽しみました。

前中代表と歩く「野の道」シリーズ、2017 年最終回は、12 月 23 日大阪府豊能郡能勢町の天然記念物の野間の大ケヤキの見学とありなしの道ハイキングコースを楽しんだ。

能勢電鉄の妙見口駅からバスに乗って本滝口バス停で下車。まもなくその大ケヤキがあった。一見した時、その立派な巨木に圧倒され感激した。元蟻無神社があった境内に植生し、幹回り 14m、樹高約 30m、枝葉もよく茂り、国内で 2 番目か 3 番目くらいの巨木とか。根の先端の保護用の小さな橋までいくつか整備され大事にされていた。

何でも「蟻無神社」という名の由来は、このケヤキの落葉で生まれた土が蟻を寄せ付けない効果があるからだとかで信者さんたちが土を持ち帰って使われたのだそう。また、「何本かの寄せ木がくっついて大木になる場合がある」という前中先生や他の人たちのお話を洩れ聞き、一つの勉強になりました。

お昼は境内のベンチで高見夫妻手作りのおいしい豚汁に至福をいただいた。

寒い中でしたが、体も温まり、元気・体力をつけてハイキング。野の道を歩きました。歩き始めてすぐ、フウセントウワタの冬の様に出合う。花の時期には生け花に使われるとか。見てみたいと思った。両面シダが山道に茂り登り下りを歩く。お茶文化に使われるクヌギの炭を作るための台場クヌギの畑の横を通過し、春ならば「黒川の桜の名所」と言われるところを通り行く。

今回私は何時になくメモとペンを忘れ気楽に参加したのだったが、昼食に高見さんから感想文の寄稿を依頼されメモなしの雑感文です。

参加者は 15 名、年に 1 度の大ケヤキのしめ縄飾りつけは 1 日あとで参加できませんでしたが、真冬並みの寒さが続いていたのに当日の気温は 12 ～ 13 度で歩きやすいハイキング日和でラッキーでした。

黄土高原史話〈86〉

酈道元と楊衒之

谷口　義介（GEN 会員）

本シリーズ、今回で 86 回を数えるが、51 回目からは連続して北魏関連のことを書いてきた。それというのも、この王朝の前期の都・平城はいまの山西省大同にあたり、GEN の緑化協力の活動範囲で、なじみが深い。後期は河南省洛陽に遷都するが、この時点で北魏と縁切りというのも薄情だろう。洛陽は広くいって黄土高原に属している。長々と北魏にかかわってきた言い訳です。

そのさい、前半の平城時代の説明で利用したのが、『魏書』および酈道元（れきどうげん）の『水経注』。後半はほとんど楊衒之（ようげんし）『洛陽伽藍記』の引き写し。大変お世話になったので、いよいよ北魏の項を閉じるにあたり、ご両人の紹介をさせていただこう。

まず酈道元については、北斉・魏収の『魏書』と唐初・李延寿の『北史』に伝がある。

『魏書』は計 130 巻で、554 年にできた。曲筆が多く穢史（わいし）と非難されるが、それだからこそ面白いといえる。血で血を洗う惨劇と宮廷スキャンダルは、本シリーズでも紹介したとおり。『北史』は華北に都を置いた北魏・北斉・北周および隋の歴史をまとめたもので、全 100 巻、659 年に完成。

酈道元について、『魏書』は 311 字、『北史』の方はその倍ほどの字数で略伝をしるすが、『水経注』のなかにも自伝的資料が散見している。これらを通じ、生涯のあらましを知ることができるだろう。

本籍地は幽州（河北）涿県（たくけん）つまり北京の西南方面というから、かの劉備玄徳（161 ～ 223）の生地あたりか。6 代まえの祖先からここに居を構えたというが、代々各地の行政長官をつとめた。北魏につかえたのは祖父のときからで天水太守（甘粛省）、父は青州刺史（山東省）。その赴任先の益都県で 469 年に生まれたようだ。

第 6 代孝文帝が洛陽に遷都した 494 年、酈道元は尚書郎（しょうしょろう）として近侍、つぎの第 7 代宣武帝期には河北・河南各地の行政長官を歴任。「法を執ること清刻」なるをもって抜擢され、地方にあって順調に官歴を踏んできたが、宣武帝の 515 年、任地先で「威猛」の政を施したため中央に訴えられ、官を免ぜられた。そして第 8 代孝明帝の 524 に河南尹（かなんいん）、つまり首都洛陽地区の行政長官（日本でいえば東京都知事）になるまで、いかなる官にも就いていない。では、この 10 年間に何をしていたのか。

『水経注』の序文にいう。

「多暇にして空しく歳月を傾くるを以て、輒（すなわ）ち『水経』」を述べて前聞を布広す」。

すなわち、47 歳から 56 歳までの挫折と失意の期間、シコシコ『水経注』を書いていたのだ。

また『北史』にいう。

「道元、学を好む。奇書を歴覧し、『水経』四十巻を撰注す」。

そもそも後漢～三国時代に成立した『水経』なる本があり、それは大小 137 の河川につき記したものだったが、酈道元はそれに詳しい注を施したわけだ。河川の数も 1252 にふやし、分量的には原書の 20 倍ほどもある。

基本は河川の水路を追った地理書だが、その流域の山や池、都市・墳墓・祠廟・名勝・古跡、故事・伝説および動植物に関する記述も含む。

原書に対し、このように『水経注』が格段に詳細なのは、酈道元が「奇書」を含め多数の文献を引用しているから。それに加えて、故郷の河北省涿県、幼少期をすごした父の任地山東益都、出仕した首都平城や洛陽、赴任した河北冀県（きけん）や河南の長葛（ちょうかつ）・魯山（ひつよう）・泌陽、孝文帝にしたがって巡歴した内モンゴル一帯、それら赴任の途次または在任中に遊歴した土地の見聞を、その叙述に生かしているからだ。

参加者募集 第 5 回 黄金崎のマツ・再生プロジェクト

台風による塩害で弱っているマツを再生させようと西伊豆でスタートした黄金崎のマツ・再生プロジェクトは GEN 顧問の小川眞先生（白砂青松再生の会会長）の指導のもと、2014 年からおこなわれています。

初年度は 100 名以上が参加し、無煙炭化器で 500kg 以上の炭を焼き、林床をきれいにすると同時に炭を埋め込み、菌根菌の胞子液を散布しました。その後も国際ボランティア学生協会（IVUSA）や地元の農業高校の生徒が参加して毎年行われ、5 回目となる今年は小川眞先生の中間総括もおこなわれる予定です。

また、前日の 2 月 24 日には IVUSA 主催のクールタウンフェス西伊豆 2018 が行われます。西伊豆町旧田子中学校にてまちづくりの展示やヤーコン料理の試食などをおこないますのであわせてご参加ください。詳細はクールタウンフェス＠静岡県西伊豆町のフェイスブックをご覧ください。　https://m.facebook.com/ivusa.nishiizu/

○日程：3 月 25 日（日）9 時～ 15 時
○場所：静岡県賀茂郡西伊豆町
○内容：黄金崎駐車場にて開会式／林松の整備、実生マツの移植等／中間総括および今後の指導
○主催：宇久須まちづくり協議会
○共催：緑の地球ネットワーク（GEN）国際ボランティア学生協会（IVUSA）白砂青松再生の会
○問合せ：藤原國雄さん tel. 0558-55-0530　e-mail：inakamono820@gmail.com

情報ひろば いろんなかたち

＊当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
＊当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

公開講演会

食品がつなぐアフリカ農村と日本
ーフェアトレードで産地は変わるかー

フェアトレードが産地に与える影響をそれぞれの視点から語る講演会です。

○日時：2018年1月27日（土）14時30分～17時
○場所：京都大学稲盛財団記念館3階大会議室（京都市左京区吉田下阿達町46）
○参加無料・申込み不要
○内容：講演1「チョコレートのフェアトレードと産地への影響」近藤光さん（NPO法人ACEガーナプロジェクト・マネージャー）／講演2「コーヒーのフェアトレードと産地の社会制度－促進する制度／阻害する制度－」辻村英之さん（京都大学教授）／コメンテーター鈴木紀さん（国立民族学博物館 准教授）池上甲一さん（近畿大学 教授）
○主催：JSPS科研費・基盤研究(S)「「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服：人類の未来を展望する総合的地域研究」
○共催：京都大学アフリカ地域研究資料センター
○問合せ：アフリカ潜在力科研プロジェクト事務局　URL：http://www.africapotential.africa.kyoto-u.ac.jp/mms/　e-mail：africanpotentialpro_jimukyoku @googlegroups.com

第25回

ワン・ワールド・フェスティバル

西日本最大の国際交流のお祭りです。

○日時：2018年2月3日（土）～4日（日）10時～17時
○場所：関テレ扇町スクエア・北区民センター・扇町公園（地下鉄「扇町」駅直結、JR環状線「天満」駅徒歩3分
○入場無料・雨天決行
○主催・問い合わせ：ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会事務局（〒546-0002大阪市東住吉区杭全1-15-18大西ビル3階（特活）関西国際交流団体協議会杭全分室 tel. 06-6777-1039 fax. 06-6714-8090 e-mail：onefes@interpeople.or.jp Facebook：https://www.facebook.com/

第21回

六甲奨学金基金のための古本市

六甲奨学金基金の古本市のため、古本集めています。ご自宅で眠っている古本がありましたらお送りください。

○受付期間：3月1日～3月31日まで
○送付方法：直接持参または送料送り主負担で送付 【注意】汚れのひどいものは不可 。辞書、新しい本歓迎。絵本、マンガ、洋書可。雑誌、教科書、参考書、パソコン解説書、文学全集、百科事典などは不可。
○古本市は3月15日～5月15日9時～22時まで毎日開催します。
○送り先・問合せ先：神戸学生青年センター古本市係（〒657-0064神戸市灘区山田町3-1-1　tel. 078-851-2760 fax. 078-821-5878　e-mail：info@ksyc.jp　URL：http://ksyc.jp/）